

xGate Ver.3.5.2PL9/3.7PL6 リリースノート

2011 年 4 月 15 日

株式会社オレンジソフト

1. Ver.3.5.2PL8/3.7PL5 からの更新内容

xGate Ver. 3. 5. 2PL9/3. 7PL6 では下記の変更を行いました。

1.1. 仕様変更/機能追加

以下の機能について仕様変更/機能追加を行いました。

[全体]

Office2007 形式の文書表示

Office 文書表示オプションを使用している際に、Office2007 形式のファイルの内容を見ることができるようになりました。

1.2. 不具合修正

以下の不具合を修正しました。

[全体]

POP 使用時に本文表示ができないメールがある

受信プロトコルに POP を使用しているときに、メールの本文表示の際に、「メールがありません、削除された可能性があります。」と表示され、本文表示ができない場合がある不具合に対応しました。

[PC]

トップメニューやオンラインヘルプの HTML 構文が不適切

トップメニューやオンラインヘルプに不適切な HTML 構文があり、特定のブラウザなどでレイアウトの乱れなどが生じていた不具合に対応しました。

2. 動作環境

xGate Ver. 3. 5. 2PL9/3. 7PL6 を動作させるには、下記の環境が必要になります。

2.1. ハードウェア

下記のいずれかのハードウェアが必要になります。

- ・ PC (IA) サーバ
- ・ Sparc サーバ

その他のハードウェアについては、順次検証を行っていきます。

2.2. オペレーティングシステム

下記のいずれかのオペレーティングシステムが必要になります。

- ・ Solaris
- ・ Linux

その他のオペレーティングシステムについては、順次検証を行っていきます。

2.3. Java

下記の JavaVM 環境が必要になります。

xGate 3.5.2PL9

- ・ Java 2 SDK, Standard Edition Version 1.4.X
- ・ 上記の JavaVM の使用にあたっては、暗号強度の問題により Java Cryptography Extension (JCE) のポリシーを変更する必要があります。

<http://java.sun.com/products/jce/index-14.html> の内容を確認して、“Unlimited Strength” Jurisdiction Policy Files の適用を行ってください。

- ・ Java の標準の設定では、DNS のキャッシュ時間が無限となっているために、メールサーバや LDAP サーバの IP アドレスを変更すると接続ができなくなるなどの誤動作が発生しますので、以下のように設定ファイルを修正してください。

ファイル : [JRE のインストール DIR]/jre/lib/security/java.security

ファイル内の以下の行を

~~#networkaddress.cache.ttl=-1~~

以下のように修正してください。(‘#’ を取り、-1 を 60 に変更)

networkaddress.cache.ttl=60

xGate 3.7PL6

- ・ Java SE 6
- ・ 上記の JavaVM の使用にあたっては、暗号強度の問題により Java Cryptography Extension (JCE) のポリシーを変更する必要があります。

<http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp> より、“Unlimited Strength” Jurisdiction Policy Files 6 の適用を行ってください。

- ・ Java の標準の設定では、DNS のキャッシュ時間が無限となっているために、メールサーバや LDAP サーバの IP アドレスを変更すると接続ができなくなるなどの誤動作が発生しますので、以下のように設定ファイルを修正してください。

ファイル : [JRE のインストール DIR]/jre/lib/security/java.security

ファイル内の以下の行を

~~#networkaddress.cache.ttl=-1~~

以下のように修正してください。(‘#’ を取り、-1 を 60 に変更)

networkaddress.cache.ttl=60

JavaVM の起動時に、最大ヒープサイズを可能な限り大きく、少なくとも 128Mbyte は確保するようにしてください(-Xmx オプション での指定となります)。

2.4. Web サーバ + Java サブレットエンジン

下記の Web サーバ + Java サブレット環境が必要になります。

xGate 3.5.2PL9

- Apache 1.3.X + Tomcat 4.1.X (4.1.31 以後)
- Apache 2.0.X + Tomcat 4.1.X (4.1.31 以後)
- Apache 2.2.X + Tomcat 4.1.X (4.1.31 以後)

xGate 3.7PL6

- Apache 1.3.X + Tomcat 6.X
- Apache 2.0.X + Tomcat 6.X
- Apache 2.2.X + Tomcat 6.X

3. xGate の新規インストールと設定

xGate を新規インストールする際、下記の点について注意して行ってください。

3.1. xGate 用の動作環境の準備

「2. 動作環境」にしたがって、xGate の動作環境を準備してください。

3.2. xGate Ver.3.5.2PL9/3.7PL6 パッケージのインストール、設定

「xGate Ver. 3.5.2/3.7 インストールガイド」、「xGate Ver. 3.5/3.7 ConfigSetup ガイド」に従って xGate のインストール、設定を行ってください。

3.3. ファイアウォールの設定

xGate とメールサーバの間にファイアウォールがある場合、ファイアウォールに SMTP、IMAP(または POP)の TCP ポート番号を通すように設定してください。

また、アカウント情報管理のため、LDAP を利用する場合も同様に LDAP のポート番号を通すように設定してください。

3.4. ユーザアカウント情報の登録

「xGate Ver. 3.5.2/3.7 管理者ガイド」に従ってユーザー登録を行ってください。

xGate をご導入頂いた際、ユーザアカウント情報を登録するための管理者ユーザアカウントが予め設定されています。

■ アカウント管理/基本設定のみの場合

ユーザー名:	admin
パスワード:	admin
キーコード:	9999

■ アカウント管理/LDAP オプション機能を利用した場合

ユーザー名:	000000
パスワード:	admin
キーコード:	9999

※ xGate のパッケージに含まれている admin.ldif の内容を参考に管理者用

エントリをあらかじめ作成してください。admin.ldif は xGate の展開先の WEB-INF/conf/ に含まれています。

■ 環境設定

パスワード: xgate password

4. xGate 旧バージョンからのデータの移行

4.1. xGate Ver.3.4/3.5/3.7 パッケージからのデータの移行

旧バージョンの xGate からのデータ移行を行う際には、インストールの前にデータの退避を行っておいてください。ここでは、旧バージョンの xGate のファイルを /usr/local/tomcat/webapps/xgate.old/ に退避してあることを仮定します。

旧バージョンの退避の例)

```
# mv /usr/local/tomcat/webapps/xgate/ /usr/local/tomcat/webapps/xgate.old
```

移行できるデータ

- 設定情報(WEB-INF/conf/ 以下のファイル)
- アカウント情報(WEB-INF/account/ 以下のファイル)
- 個人アドレス帳(WEB-INF/address/ 以下のファイル)

情報のコピーの例)

```
# cd /usr/local/tomcat/webapps/  
# cp xgate.old/WEB-INF/conf/xgate.conf xgate/WEB-INF/conf/ ... (1)  
# cp xgate.old/WEB-INF/conf/log.conf xgate/WEB-INF/conf/ ... (1)  
# cp xgate.old/WEB-INF/conf/*.dic xgate/WEB-INF/conf/ ... (1)  
# cp xgate.old/WEB-INF/account/* xgate/WEB-INF/account/ ... (2)  
# cp -r xgate.old/WEB-INF/address/* xgate/WEB-INF/address/ ... (3)
```

(1) 設定情報のコピー

今まで使用していた設定情報が保存されているファイルを全て、新しくインストールした xGate のディレクトリにコピーします。

(2) アカウント情報のコピー

今まで使用していたアカウント情報が保存されているファイルを、新しくインストールした xGate のディレクトリにコピーします。このディレクトリにはライセンス情報も含まれているため、アカウント情報の格納先に LDAP を利用している場合でも、コピーは実行してください。

(3) 個人アドレス帳のコピー

今まで使用していた個人アドレス帳が保存されているファイルを、新しくインストールした xGate のディレクトリにコピーします。各アカウント毎にディレクトリが作成されているので、ディレクトリ階層を含めたコピーが必要なことに注意してください。

い。この作業は、個人アドレス帳の格納先に LDAP を利用している場合には、不要です。

5. ログ出力

5.1. ログの出力先

「ファイルに記録」を選択した場合、ログファイル名で指定したファイルにログが出力されます。

「コンソールに出力」を選択した場合、通常は Tomcat の catalina.out ファイルにログが出力されます。

5.2. ログのローテーション

「ファイルに記録」で作成されたログファイルは自動的に日次でローテーションされますが、古いログファイルの削除は行われません。ログファイルの削除を行う場合は、OS コマンドによる削除が必要となります。

6. WILLCOM 端末への対応

6.1. 3.5.2PL5/3.7PL2 以前のバージョンからのアップデート時の注意

3.5.2PL6/3.7PL3 より、端末種別に WILLCOM が追加されました。3.5.2PL5/3.7PL2 以前のバージョンからのアップデートの場合、移行したアカウント情報では WILLCOM 端末の使用が許可されていません (WILLCOM 端末での利用ができません)。WILLCOM 端末の使用を許可するには、アカウント情報の更新を行ってください。

新規に作成したアカウントについては、WILLCOM 端末を含む全種類の端末の使用が許可されます。

7. 使用上の制限

7.1. 端末認証

端末認証を使用するには、携帯端末側が固有の ID を発行する機能を持っている必要があります。xGate の対応携帯端末の中で、今現在、このような ID を持つ携帯端末およびそのサービスは、

- (1) KDDI (au) の EZweb (EZ 番号)
- (2) NTT DoCoMo の i モード 506i・505i・504i・503i・253i・252i・213i・212i・211i・FOMA シリーズ (11/15 桁の製造番号)
- (3) SoftBank の Yahoo!ケータイ (製造番号)

となります。

デフォルトのシステム設定値は、端末認証を行う設定になっていません。端末認証を行う場合、環境設定の「セキュリティ設定」－「端末認証設定」で設定値を変更してください。

i モードのデュアルネットワークサービスを使用している場合には、FOMA/mova のそれぞれの端末ごとに異なる製造番号が通知されます。一台の端末で FOMA/mova を切り替えられる場合でも、異なる製造番号が通知されます。この場合、(ライセンスを消費しますが) FOMA/mova それぞれ別のアカウントを作成してください。

i モードの場合には、ログイン時に端末情報の送信の許可を確認するメッセージが表示されます。このときに、「端末情報の送信を許可しない」を選択した場合には、端末認証によるログインは行う事ができません。EZweb/Yahoo!ケータイ の場合には、あらかじめ端末の設定により EZ 番号/ユーザ ID を「通知する」ように設定しておく必要があります。端末情報が通知されない場合は、端末認証によるログインは行う事ができません。

7.2. SSL 暗号化

xGate の Web サーバに SSL を導入した場合、各携帯端末は、下記の区間での暗号化が行われます。

- (1) NTT DoCoMo i モード 506i・505i・504i・503i・253i・252i・213i・212i・211i・FOMA シリーズ

携帯端末から xGate 間での暗号化が行われます。

サーバ証明書が、ペリサインかボルチモアでない場合、「このサイトは安全でない可能性があります 接続しますか？」と確認されます。

- (2) NTT DoCoMo i モード 506i・505i・504i・503i・253i・252i・213i・212i・211i・FOMA シリーズ 以外

キャリアゲートウェイから xGate 間での暗号化が行われます。

- (3) KDDI(au) EZweb

携帯端末から xGate 間での暗号化が行われます。

サーバ証明書が、キャリアでサポートされていないものの場合、接続に失敗します。

(4) SoftBank Yahoo!ケータイ

携帯端末から xGate 間での暗号化が行われます。

(5) PDA(Windows Mobile)

PDA(Windows Mobile)から xGate 間での暗号化が行われます。

(6) PC

PC から xGate 間での暗号化が行われます。

7.3. 画像添付ファイル

表示可能な画像添付ファイルのフォーマットおよびサイズは、端末によって異なります。

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| (1) EZweb: | BMP(1050 バイト)、PNG(8000 バイト) |
| (2) i モード: | GIF(1023 バイト) |
| (3) Yahoo!ケータイ: | PNG(6000 バイト)、JPG(6000 バイト) |
| (4) PDA(Windows Mobile): | 上記のファイル全て(9999 バイト) |

7.4. POP/APOP メールサーバ

メールサーバとして POP/APOP を使用される場合、以下の制限があります。

- (1) IMAP でご利用頂ける以下の端末操作は、POP/APOP では実装されていません。
- ・ 未読／既読の表示
 - ・ メールボックスの選択
 - ・ コピー
 - ・ 移動
 - ・ 未読に戻す
 - ・ メールの検索
 - ・ フィルタリング
 - ・ 迷惑メールフィルタ
 - ・ 着信通知
 - ・ Outbox への保存
- (2) POP サーバは、拡張コマンド TOP、UIDL のサポートが前提となります。
- (3) メール本文、添付ファイルの途中で 5000 行を超えた場合
- ・ メール本文の途中の場合、それ以降の行は表示されません。
 - ・ 添付ファイルの途中の場合、そのパートは表示されません。

7.5. オフィス文書表示

オフィス文書表示オプションで、以下の制限があります。

- (1) DOC・XLS・PPT・PDF ファイルにおいて、ファイルの保存形式などによっては、同じテキストが複数回表示されたり、「表示できません」と画面に表示される

場合があります。

- (2) 校閲機能の修正前の情報や非表示にしているページ(シート)などが、表示される場合があります。

7.6. HTML メール の二重表示

受信したメールが、Content-Type: Multipart/Alternative の形式だった場合、同じ内容のメッセージが二重に表示されているように見ることがあります。これは、text/plain の形式で記述された部分と text/html で記述された部分の両方を xGate が表示するためです。

7.7. 「本文にコピー」でのメール転送(携帯電話端末)

仕様として添付ファイルは転送されません。HTML メールや MIME でカプセル化された転送メールなどは、xGate で表示を行うことはできますが、実際のメールの形式は添付ファイルと同様に扱われるため、これらも転送対象とはなりません。

7.8. PC(Web メール)

- ・対応 Web ブラウザ

Microsoft Internet Explorer Version 6 以後/Mozilla Firefox/Safari (MacOS X) に対応しています。

7.9. PDA(Windows Mobile)

- ・「戻る」ボタンの使用制限

ブラウザの「戻る」ボタンで前画面に戻ろうとすると、「コマンドに誤りがあります」というエラーが発生することがあります。これはブラウザのキャッシュの仕様による問題です。xGate では「戻る」ボタンを使わずに利用できるよう設計されています。「戻る」ボタンは利用しないでください。

7.10. ライセンスコードの制限

- ・評価版ライセンスコードの制限

デフォルトで設定されている評価用ライセンスに使用期日 30 日の制限がつけました。